

5-4 業界の将来を担う若手技術者の主体的活動

5-4-1 「業界展望を考える若手技術者の会」の設立経緯

「業界の将来を考えているのは経営幹部ばかりだった。しかし、業界の将来を担うべき存在は誰なのか。我々若手世代ではないか。であれば、若手自らが業界の現状を憂い、明るい未来を描き、実現に向けて今から行動すべきでないか。」

そうした問題認識を持った若手が協会に嘆願し設立された若手組織が、「業界展望を考える若手技術者の会（設立：2015年4月）、新体制：2021年7月」（以下「本部若手の会」という。）である。

【ミッション】若手の力で業界活性化の一大ムーブメントを興す

【目標①】若手目線での建設コンサルタント業界への問題提起

【目標②】若手主体の企業変革アクションの実践

【目標③】若手の主体的な行動によりワクワクを伝播させる

【若手の会が目指す姿】自走するチーム（自律型組織）

【若手の会の意義・価値】

- ・ 試行錯誤（本業ではできないことの試行、会社の壁を越えた越境体験）
- ・ つながり（若手同士の交流の場を創出。業界内・業界外団体とのコラボレーション）
- ・ 自己認識・自己実現（なりたい自分はなにか、どうやったらなれるか、建設コンサルタントとしてのやりがいを発見、活動を通じて意識を醸成）
- ・ 居心地の良さ（所属企業とは異なるサードプレイス）

5-4-2 本部若手の会の活動紹介

本部若手の会では、アンケート調査、各種イベント（業界内のみならず、異業種企業とも連携）の開催等を通じて、協会に提案や要望を行っている。また SNS 等（Twitter、Facebook、YouTube）の広報活動に加え、業界関係紙等にも掲載されている。

2022年度に行った各種活動を以下に示す。

①委員会活動

2022.10：「コロナ禍を経た若手の働き方実態調査」の実施

②各種イベント

2022.06：わたしたちのプレゼンをみつける「プレゼンテーションセミナー」

2022.06：長時間会議の改善・新たな価値創出「ビジュアル思考を学ぶウェビナー」

2022.07：長野県千曲市×建コン「全国支部合同若手交流会&ワーケーション」

2022.11：アーバンスポーツ×建コン「中国支部合同交流会」

③広報活動

Twitter：「建コン本部若手の会」。活動情報を随時配信中。

ポッドキャスト（Spotify等）：「建コンれいでいお」。建コンの若手の思いを配信中。

YouTube：「建コン本部若手の会（公式）」

Facebook：「建コン 4.01（ケンコン・フォース）」

5-4-3 若手世代が考える業界のやりがい、あるべき働き方

(1) 建設コンサルタントで働く若手のシゴト観

2017年8月に、建設コンサルタント企業で働く20～30代の若手技術者約1,200人を対象としたシゴト観アンケートを行った。本部若手の会では、以下に示すような現状と理想のギャップを解消しモチベーション高く働くにはどうすべきかについて様々な取組みを展開している。

○若手のシゴト観

『日常に忙殺されストレスを感じたり、頑張っても報われないことにしばしば無気力感を感じながらも、漠然とだが技術者としての成長や仕事の社会的意義を感じ取り、なんとかモチベーションを保っている。また、将来に対してははっきりした夢や希望を持たず、いつかは転職という選択肢も頭によぎりながら、日々悶々と仕事をしている。』

○志向する働き方

『たとえ収入が少なくなっても、仕事とプライベートのバランスを取りながら働きたい。また、会社への帰属意識よりも、1人の技術者としての自分がやりたいことや夢の実現、知的好奇心・興味関心ある仕事を通して成長することで、社会から認められる働き方』

(2) 建設コンサルタント業界で働く若手のやりがいと課題

本部若手の会が、中国支部若手の会と協働で2022年11月に開催した「建コン若手の会 Assemble the WAKATE (中国支部交流会)」では、建設コンサルタント業界で働く若手が感じているやりがいと課題について議論した。議論で挙げられた「業界全体に共通するやりがいと課題」の一部を以下に紹介する。本部若手の会では、課題を解決するためのアクションを2023年度より進めていく予定である。

○若手が思う業界全体に共通するやりがい

- ①カタチが残る（自身のアイデアが実現できる、地図に残る）
- ②世の中のためになる仕事で稼げる（稼いだお金に胸を張れる）
- ③社会の課題を解決できる（課題解決のストーリーを作ることができる）
- ④仕事がなくなることがない（社会課題を解決するためニーズが高い）
- ⑤社会・地域・地元・人の役に立てる（地元で恩返しができる、日本各地の力になれる）
- ⑥人との交流が楽しめる（発注者・施工者・住民など色々な人と交流することができる）

○若手が思う業界全体に共通する課題

- ①モチベーションの維持（直接感謝される機会は少ない）
- ②長時間労働（残業時間は多い、目の前の業務に忙殺されることがある）
- ③新技術（DX）に積極的ではない（紙・書類が多い、導入に時間を要する）
- ④自己実現（働く時間も限られる中、目の前の仕事に忙殺されてやりたい仕事ができない）
- ⑤キャリアチェンジが難しい（同じ職務が続くケースがある、職位があがると手を動かす機会が減る）
- ⑥一人前になるまで時間がかかる（技術者として自立できるまでに時間がかかる）

(3) エンゲージメントを高めるための処方箋

1) エンゲージメントが高い状態とは

- ①仕事のやりがいや自由裁量の実感など「個人」で幸せな働き方ができている状態（職務）
- ②チームで協力して働くことや感謝・承認があること、チャレンジングの文化が定着しているなど、「チーム」で心理的安全性が確保されている状態（組織風土）
- ③ミッションやビジョンに共感でき、会社（経営陣）に対する信頼がある状態（理念戦略）

2) エンゲージメントを高めるための処方箋

具体的な処方箋としては、図 5-4-1 に示すように個人ではセルフコーチングや越境学習など、チームでは心理的安全性やコーチ型リーダーシップなど、会社ではミッション・ビジョンの共有や自由裁量の拡大などに取り組んでいく必要がある。



図 5-4-1 建設コンサルタント業界のエンゲージメントを高めるための処方箋の体系

5-4-4 若手世代のアクション

本部若手の会は、上記のような問題意識を共有するとともに、「アクションなくしてリアクションなし」をスローガンに、業界をアップデート（最新のものに更新）するためのアクションを積極的に展開している。

(1) 若手組織代表者 40 名でワーケーション開発合宿

2022 年 7 月には全国各支部の若手組織代表者 40 名が長野県千曲市に一堂に会し、コロナ禍で“フェイス・トゥ・フェイス”コミュニケーションが可能でチームビルディングに効果的な“ワーケーション”を体験しながら、若手の会のアクションプランを策定する開発合宿を開催した。参加者のほとんどが初めてのワーケーション体験ではあったが、信州千曲観光局や地元の方の協力もあり、その場でしか巡り会えない出会いやアイデアが創出された。

ワーケーションを初めて体験した際に感じた疑問を解決する「建コンワーケーションのすすめ」

を図5-4-2にて紹介する。

Ver.01
Ver.01

建コンワーケーションのすすめ

コロナ禍によりテレワーク等の新たな働き方が普及していく中で、仕事とそれ以外を切り離すのではなく、人生そのものを充実させる**柔軟な働き方・生き方**が求められており、そのひとつとして今**ワーケーション**が注目されています。・・・が、果たして**建コン業界で働く私たちにとってワーケーションの導入は効果的なのでしょうか・・・?** 疑問にお答えします。

ワークライフバランス

ワークライフインテグレーション

ワーケーションって何? Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、普段の職場とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすことです。

会社で仕事するのは何が違うの? 普段と異なる環境に身を置くことで、新しい刺激・気づきを得られます。また、「仕事が捗る」から生まれた心と時間の余裕を「出会いや学び」に生かし、働く意欲の向上が期待されます。

図 ワーケーションのスタイル

裏へ→

人とのつながり? 職場の同僚との関係性を強化し、チームビルディングの促進が期待されます。地域の人たちや自治体、異業種の人たちとの**出会いや交流**が生まれ、世界が広がります。

仕事に活かせる? ワーケーションを通して、地域の良さやリアルな地域課題、地方創生の取組を体感することで、建設コンサルタントの意識を改めて考える機会になります。

生産性向上? メリハリをつけて自律的な働き方を行うことで**エンゲージメントが向上し**、モチベーションもアップできるかもしれません。

健康増進? 大自然、温泉、地場食材などを楽しみ、リフレッシュをすることで「**転地効果**」が期待されます。

会社の方が効率は良いのでは? 会社の方が効率的な業務内容もちろんあると思います。ワーケーションでは普段と異なる環境における**新しい発想の獲得**が期待されるため、提案作成や、社員研修などにも適しています。その他にも、論文作成や外部活動の資料作成、試験勉強にも良いかもしれません。

いつもと違う環境で仕事捗る? まずはやってみないとわからないかもしれませんが、出張先やカフェなどでリモートワークができるのであれば、ワーケーションは充分できると考えられます。

緊急対応があったら? 通常の休暇取得と同様、災害等の緊急対応が発生しにくい時期を選んで実施することが望ましいと考えます。

そもそも忙しくてそんなに余裕ない 忙しくて生活に支障をきたしていたり、健康を害している状況であるなら改善することが望ましいと考えます。ワーケーションを実施するにあたり、業務調整をしたりチームとのコミュニケーションを図ることで、働き方改善の一助となることを期待します。

仕事とプライベートはきちんと分けたい 「仕事」と「プライベート」の中間に「ワーケーション」という時間の使い方が一つ選択肢として増えるイメージで考えてみてはどうでしょうか。

会社の理解を得られないと制度作りも進まない まずは年に一度、レクリエーション活動のひとつとして企画してみたりして、小さな経験と成果を会社にフィードバックしていくのはいかがでしょうか。国や他社の取組を踏まえて実施してみると良いと思います。

建コンで実施しているところあるの? 当会が2022年7月に長野県千曲市でワーケーション合宿を行いました。ダイジェスト動画はこちら。
<https://www.youtube.com/watch?v=JxOxQzQ0Zg>

2022年10月 建設コンサルタンツ協会 業界展望を考える若手技術者の会

図5-4-2 建コンワーケーションのすすめ

(2) コロナ禍を経た若手の働き方実態調査

2022年10月には、建設コンサルタンツ協会若手の会等所属委員（全国9支部の若手組織、女性の会）を対象に、“若手にとって働きやすい職場環境を形成する一助となること”を目的とした「コロナ禍を経た若手の働き方実態調査」アンケートを行った。アンケートの設問は、①所属企業や個人が実施している「生産性向上、業務効率化、残業削減」の取組み内容や、②「働き方の多様化」に関わる取組み内容、③現在の働き方について悩んでいること・自由意見とした。

調査結果の一例として各社で実施している生産性向上の取組み状況は、図5-4-3に示すとおり各社で実施している取組みは、ネガティブな評価よりもポジティブな評価（生産性向上効果がある）が多く、ポジティブな評価数が10件以上あるものは以下の取組みであった（図5-4-3黄色着色項目）。なお、本調査結果を踏まえた働き方の取組み事例集は2023年度に公開を予定している。

- ①ノー残業デー（呼びかけ） 【残業の管理】
- ②PC使用時間規制 【残業の管理】
- ③フレックス制度 【勤務時間の変更】
- ④時差出勤制度 【勤務時間の変更】
- ⑤在宅勤務 【勤務場所の変更】
- ⑥WEB会議の活用 【ツールの活用】
- ⑦チャットツールの活用 【ツールの活用】

- ⑧ノート PC の貸与 【備品類の整備】
- ⑨スマートフォンの貸与 【備品類の整備】

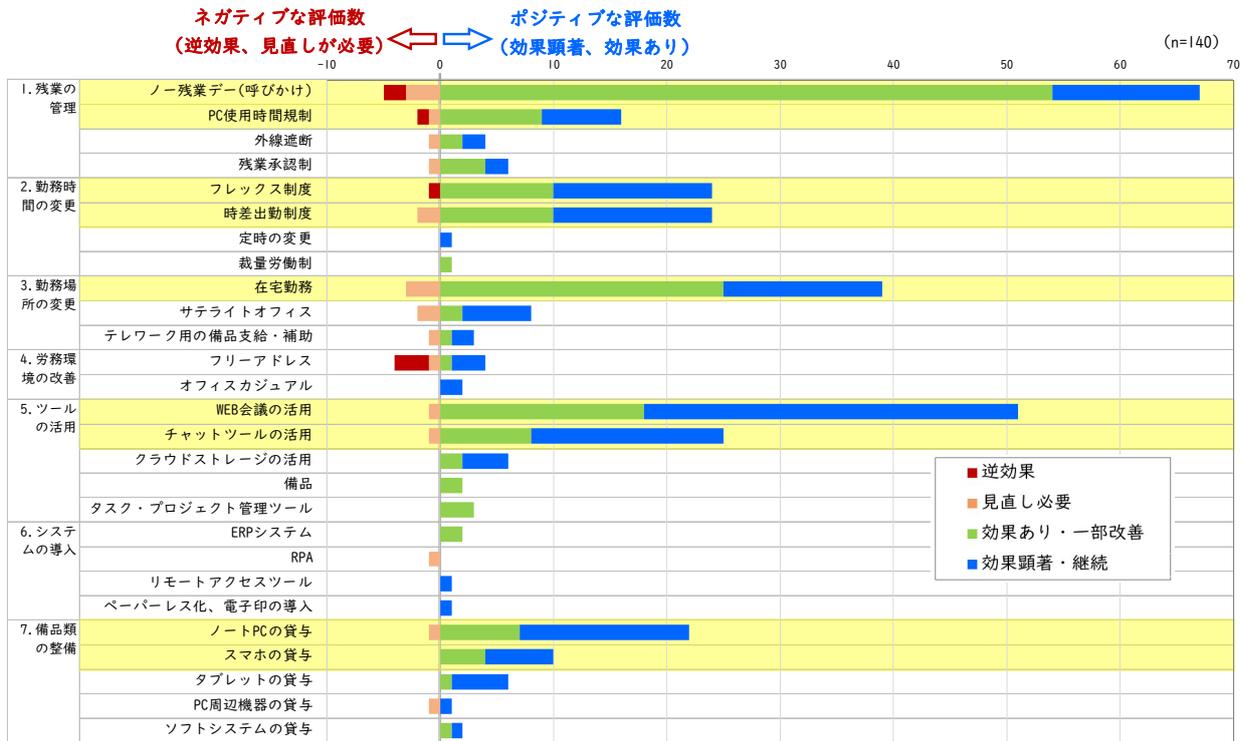


図 5-4-3 調査結果の一部 (各社で実施している生産性向上の取組み状況)

(3) 業界で働く若手の思いを伝える活動

若手の会の活動の発信は、これまで Facebook やメルマガといったツールを用いていたが、さらに幅広い世代・立場の方とつながり、建設コンサルタント企業で働く若手の思いを伝えていくために、2022年6月以降、Twitter、YouTube、ポッドキャスト(Spotify)の3種類で情報発信している。

Twitterは、本部若手の会の活動に関わる内容の発信に止まらず、同じく土木業界で情報を発信しているアカウント・個人とのつながりを構築している。

YouTubeは、映像として多くの情報を伝えられるメリットを活かし、本部若手の会の活動の記録をナレッジとして蓄積するとともに、映像から伝わる表情や熱意などが各支部の活動や業界の活性化につながることを期待している。

ポッドキャスト(Spotify等)は、「建コンれいでいお」という番組として、若手の会の委員を中心に様々な企業のメンバーが集まって話した建設コンサルタント企業で働く若手の「困っていること」や「悩んでいること」などの生の声を共有することで、業界で働く人の一体感を高めるとともに、等身大の建設コンサルタントを業界外に広く伝えるために発信している。



【Twitter】



【YouTube】



【Spotify : 建コンれいでいお】

5-4-5 支部の若手活動

若手組織は全国9支部に発足しており、各々の支部にてアクションを起こしている。2022年度に実施した活動一覧は表5-4-1に示す。なお、各支部の代表的な取組みについては後述する。

表5-4-1 支部の若手活動一覧

	令和4年度の活動（アクション）	概要
北海道支部	・テレワークに関するアンケート調査の実施	コロナ禍を経て、北海道地区の建設コンサルタント業界で働き方やテレワークについてどのような変化があったか調査し分析
	・北海道開発局若手職員との意見交換会の実施	北海道開発局の若手職員とのワークショップを開催し、建設業界が抱える課題や解決策について議論
	・ポスターカレンダーの作成、配布	北海道内の大学・高専向けに2023年のポスターカレンダーを作成・配布し建設コンサルタント業界の知名度向上を図る
東北支部	・東北地方整備局との若手職員交流会の開催	お互いに求められるもの、私の働き方宣言をテーマに交流会を開催
	・若手技術者WEB交流会の開催	理想の働き方をシェアし、Well-beingを目指すためのアイデアを議論
	・大学生との座談会の開催	学生の不安や疑問にホンネで答え、業界の魅力発信や就職活動の一助に
	・若手技術者インタビュー動画の配信	若手のリアルをYouTubeで配信し、若手技術者のモチベーションUPや業界外への認知度向上を目指す
	・若手の仕事に対する想いを調査	働きやすい環境づくりへ向け、仕事の価値観や理想の働き方を調査
	・認知度向上へ向けたSNS等の活用	FacebookやTwitter、Instagram等で若手の会の活動や日常を発信
関東支部	・建設コンサルタンツ協会広報冊子作成に向けた検討	建コン業界の周知を目的とし、大学生向けに建コンの仕事紹介、土木インフラ施設の紹介の冊子を作成することを目標に、今年度は方針の整理を実施した
	・関東地方整備局若手交流会の企画書作成	関東支部の技術施策委員会へ向けた交流会開催の企画書を作成。来年度より本格的に開催へ向け客先と協議
	・実態調査アンケート報告書の修正・加筆	実態調査アンケート報告書の加筆のため、上司・若手での働き方の考え方の乖離に関するWSを開催
北陸支部	・若手技術者交流会の開催	若手技術者が日々の仕事内容やより良い建設コンサルタント業界の構築にむけた取組等について、自由に意見交換を行うイベントを開催
	・土木出張PR	将来の担い手確保のため、新潟県と建設業界の団体が連携し、新潟県内の中学校（6校）に伺い、それぞれの立場から仕事の内容や魅力・やりがいなどをPR。
中部支部	・JobCafeの開催	学生への業界PRとして就活前の学生をターゲットに座談会を開催
	・離職率ダウンに関するアンケート作成	業界に対する意識調査アンケートを作成
	・あいち建設みらいサロンへの参加	学生への業界PRとして就活前の学生をターゲットに大学イベントへ参加
	・Wills Summit workation 2022への参加	参加及び意見交換の1セッションを企画
近畿支部	・建設技術フェアへの参加	学生への業界PRイベントに、技術部会・女性の会と協同で参加
	・大学、高専での業界説明会の開催	大学生や高専生を対象に業界の概要説明、キャリアパスの紹介、若手技術者の体験談紹介を行い、業界の魅力をアピール
	・サマーセミナーへの参加	自治体が開催するサマーセミナー（自分のスキルや体験を1日限りの先生になって発信）で業界を知ってもらうための講座を開催
	・「建コン川柳コンテスト2022」の開催	業界の魅力発信及び知名度向上を目的として、業界あるあるをテーマにした川柳コンテストを開催
中国支部	・橋の魅力のPR活動	各種インフルエンサーとコラボして、『橋の魅力発信プロジェクト』Instagramのフォロワー数6600人、動画再生数(コラボ企画全集計47万回)を達成
	・業界PRを目的としたSNS等の活用	note、Instagramを立ち上げ、業界紹介、協会や若手の会の活動、若手の経験談等を発信
	・若手/管理職の意識調査アンケートの実施	若手/管理職の意識のギャップを埋めるアクションを今後検討することを目的に、アンケートを実施
	・学生向け業界説明会の参加	総務部会主催の業界説明会に参加し、若手の会活動や若手技術者の仕事を紹介
四国支部	・Assemble the WAKATEの開催	広島県呉市にて中国支部若手の会と交流し、建設コンサルタントとしてのやりがいを議論
	・小学生出前授業in高知	次世代を担う小学生を対象に、建コンの仕事紹介など出前授業を実施。出前授業では、橋クイズ、ドローン実演、ドローンの操縦体験を行い、業界の役割や魅力をPR。
九州支部	・学生向け業界説明会の開催	大学生、高専生、高校生を対象に業界の説明、若手技術者との座談会を行い、業界の魅力をPR。説明会の最後に、業界イメージについて学生アンケートを実施。
	・業界若手向けの若手技術者交流会の開催	若手主催での技術者交流会（技術発表会）を開催。日頃の業務成果や個人としての技術者像なども含めて発表。
	・女性技術者や国交省、若手の会との各種意見交換会の開催	女性目線、若手目線、発注者とコンサル目線等として、他組織と連携して意見交換会等を実施。
	・学生向けのジョブカフェの開催	若手社員と学生がカフェに集い、建設コンサルタントとは？仕事の内容とは？若手の1日の過ごし方等、企業説明会では聞けないディープかつホンネの面を聞いて味合わせる機会として開催。
	・大学出前講座の開催	就活前の学生（主に1、2年生）を対象に、大学に直接赴き、土木業界の3本柱（発注者、建コン、ゼネコン）の関係や、建コンの担う役割や魅力等をPPT等を用いてアピールする機会として開催。
	・一般向け活動としてのバス広告、SNSの発信	都市部において学生がよく利用する路線を対象にバス広告を掲載し、業界周知活動を実施。SNS（facebookやInstagram）を開設し、積極的な情報発信を展開。
	・ニュースレターの発行	活動内容を不定期で若手委員会ニュースレターとして発行。実施内容を外部に発信。

(1) 北海道支部

1) 北海道開発局と建設コンサルタンツ協会北海道支部若手職員による意見交換会

2022年12月に、北海道開発局の若手職員と北海道支部若手の会でワークショップ形式の意見交換会を実施した。グループに分かれて北海道の建設業界が抱える課題について討議し、その原因及び解決策について考え、最後に各グループが議論内容を発表した。

意見交換会では、長時間労働や人手不足、建設コンサルタント業界のPRなどのキーワードが挙がり、発注機関側も受注者側と同様の課題を認識していることが分かった。今後も、発注機関等との交流会・意見交換会の開催を検討していきたい。



北海道開発局の若手職員と北海道支部若手の会メンバーで意見交換会を実施（2022.12）
写真 5-4-1 意見交換会

(2) 東北支部

1) 整備局若手職員交流会

建設コンサルタント業界の枠にとどまらず、土木業界の魅力度向上や活性化の一助の機会とすることを目的に「整備局若手職員交流会」を企画・開催した。整備局若手職員交流会としては、4回目となる。

【開催方法】 対面開催（仙台市中小企業活性化センター）

【参加者】 東北地方整備局 若手職員（11名）、東北支部若手の会（10名） 計21名

【プログラム】

2022年11月28日(月)14:30~17:55
グループディスカッションテーマ
1. お互い（国交省（整備局）・建設コンサルタント）に求められるもの
2. 私の働き方宣言
～Well-being の実現へ向けて～



写真 5-4-2 整備局若手職員交流会の様子

【整備局若手職員交流会の主な意見】

テーマ1：お互い（国交省（整備局）・建コンサルタント）に求められるもの

- ・優先度や時間等の状況に応じたコミュニケーションツール（メール・電話等）の使い分け
- ・事業の目的や相手の意図に応じた資料作成や明確な指示など業務を円滑に進める工夫
- ・技術力向上のために、各分野やDX 関連の勉強（実務・机上）や研修の実施

テーマ2：私の働き方宣言～Well-being の実現へ向けて～

- ・「プライベート重視の人」だけでなく、「仕事を頑張りたい人」も働きやすい環境整備
- ・ライフスタイルに合わせ、個人単位で「働き方」・「働く場所」の選択が可能な制度拡充
- ・仕事でも私生活でも、「自分らしさ」を発揮した楽しいライフスタイルを意識したい

2) 若手技術者アンケート

建設コンサルタント業界の若手技術者が抱く問題・課題を抽出し、今後の働きやすい環境づくりに反映させるため、「仕事に対する価値観」「職場環境」「理想とする働き方」等について若手技術者アンケートを実施した。

【調査対象】東北の建設コンサルタント業界で働く若手（～50歳未満）

【調査時期】2022年11月7日～11月30日

【アンケート調査結果】

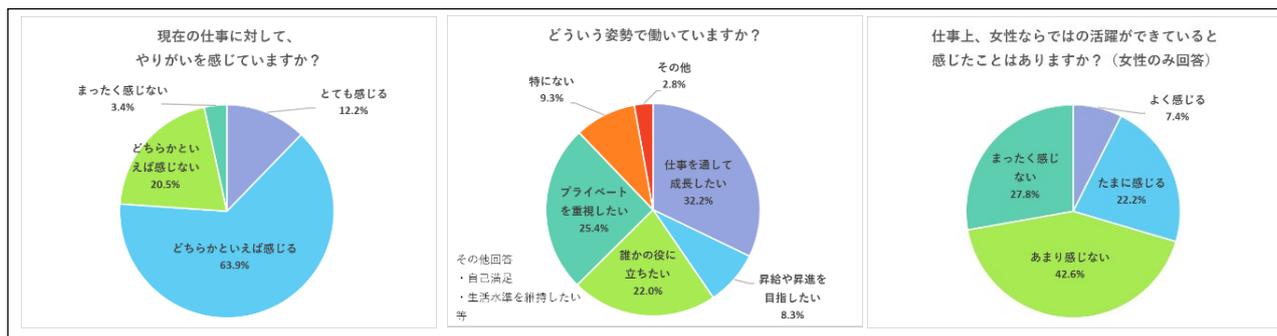


図 5-4-4 東北若手技術者アンケート結果抜粋

前述の設問以外の「仕事や会社にどのような環境を求めるか（選択回答）」に対しては、“人間関係の良い職場環境”が 50.2%、“自分の能力を活かせる”が 21.5%、“休暇が取りやすい”が 16.1%、“チャレンジできる”が 6.8%だった。これらの設問は2021年に学生アンケートでも調査しており、学生の描く仕事観と若手の抱く仕事観にあまりギャップがないことがわかった。

調査結果を受け、若手だけではなく経営層の方々と問題意識の共有を図り、若手としてすべきこと、経営層としてすべきこと、協力してすべきことなどを模索し若手の会としてアクションを起こしていきたい。

(3) 関東支部

1) 実態調査アンケートを踏まえた上司・部下の意見交換会

関東支部若手の会では、前年までに実施した働き方の実態調査アンケートを基に、世代間における社内コミュニケーションに対する意識・認識の違いについて、上司、部下との意見交換会を実施した。

【開催日時】2022年11月29日（火）15:00～17:00

【開催方法】対面

【参加者】若手の会委員：7名 各社の上司（40代以上の管理職等）：5名

【意見交換会内容】図5-4-5参照



写真 5-4-3 意見交換会の様子

テーマ①：『コミュニケーション不足による弊害』
テーマ②：『どのような上司部下がコミュニケーションを取りやすいか、取りにくいのか』
テーマ③：『コミュニケーション改善のきっかけや事例、普段から気を付けていること』
■スケジュール
・挨拶：10分・・・グループ分け、自己紹介等 15時00分～15時15分
・テーマ①：30分・・・意見交換① 15時15分～16時00分
・テーマ②：30分・・・意見交換② 16時00分～16時30分
・テーマ③：30分・・・意見交換③ 16時30分～17時00分
・まとめ：20分・・・意見交換にて得られた情報の共有 17時00分～17時20分

図 5-4-5 意見交換会プログラム

意見交換会では、コミュニケーションに対する意識・認識に焦点を当て実施した。社内のコミュニケーションの不足は業務遂行に与える影響（効率の低下等）が大きいと考えられ、その必要性は若手・上司共に認識しているところであった。

結果として、若手としてはコロナ渦であることから業務外での交流が極端に少なく、上司や社内の人々の素性が分からずコミュニケーションを取りづらいという意見が多く見受けられた。上司としても若手に対して気を使いながら接しており、どこまで踏み込んでいいのかわからない、部下が必要としているコミュニケーションがわからないという意見が挙げられた。

以上の意見交換会を踏まえ、実態調査アンケートの報告書加筆や、追加アンケートの実施等、引き続き検討していきたい。

（4）北陸支部

1）皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア 2022

北陸支部若手技術者ワーキンググループでは、支部内の若手技術者がお互いに刺激し合い、仕事に対するモチベーションや技術力の向上を図っていくため、日々の仕事内容などについて自由に意見交換ができる場として、グループディスカッション「皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア 2022」を対面と Web 会議システムを併用したハイブリット形式で開催した。

ディスカッション前半は、参加者全員から創意工夫や自慢できる新しい技術・取組み、仕事で失敗したことや反省した事などについてプレゼンしてもらい、各プレゼン後にグループ内でディスカッションを行った。プレゼンでは、VBA や RPA 等による作業の省力化などのほか、これまでの失敗事例やそこから学んだことなどについて発表があった。

(6) 近畿支部（魅力発信委員会）

1) 大学高専での業界説明会

関西大学、明石高専、近畿大学、舞鶴高専において、建設コンサルタントの概要説明、キャリアパスの紹介、若手技術者の体験談紹介、等の講義を実施し、建設コンサルタントの魅力を紹介した。講義前後のアンケート調査では、この活動が建設コンサルタントのイメージアップにつながっていることを確認した。



写真 5-4-7 学校訪問の講義の様子

2) サマーセミナーへの参加

自治体が開催する“自分のスキルや体験を1日限りの先生になって発信”するイベント「IKOMA サマーセミナー（生駒市）」、「みんなのサマーセミナー（尼崎市）」へ参加した。サーモグラフィを使った体験講座とこれを使った建設コンサルタントの仕事の紹介や、防災かるた（カードゲーム）を活用して災害に備える知識を学ぶ講座等を行うことで、建設コンサルタントと人々の生活との関わりや職業としての魅力を伝えた。



写真 5-4-8 サマーセミナーの様子

3) 建コン川柳コンテスト 2022

若手企画WGは、例年実施している「建コンCM総選挙」に変わり、「建コン川柳コンテスト2022」を開催した。応募総数は30作品、委員会で一次選考を行い建設技術展2022近畿の会場投票により最優秀賞、優秀賞、佳作を決定した。これらのコンテスト作品は、建設コンサルタンツ協会のHPやYouTubeに公開し、建設コンサルタントの魅力を発信する媒体として活用している。



写真 5-4-9 川柳コンテストの様子

4) 橋の魅力のPR活動

橋の魅力発信 PR 活動として、Instagram で橋梁設計のマニアックな面白さを伝えるとともに、漫画家の「原田ちあき氏」、TikTok で話題の「もにゅそで」、インフルエンサーの「東大卒はしゃべりたい（横尾健矢氏）」、お菓子絵本作家の「上岡麻美氏」とコラボ企画を実現した。その結果、Instagram フォロワー数 6600 人、動画再生数（コラボ企画全集計 47 万回）を達成した。



写真 5-4-10 「橋の魅力発信プロジェクト」コラボ企画

(7) 中国支部

1) 若手/管理職の意識調査アンケート

生産性向上の議論の中で、「コミュニケーション」の課題の意見が多く挙がった。そのため、中国支部会員企業の管理職・若手を対象とした働き方や生産性向上に関する意識調査アンケートを実施して情報収集を実施した。

2) 業界 PR を目的とした SNS 等の活用

SNS (note、Instagram) を立ち上げ、学生・子どもをターゲットにした土木への興味向上や業界の理解向上に向けた情報発信を開始した。マスコットキャラクターを作成した。



図 5-4-7 中国支部 SNS のイメージ

(8) 四国支部

1) 学生出前授業 in 高知

次世代を担う小学生を対象として、建設コンサルタントの仕事紹介、橋のクイズ、ドローンの活用事例紹介及び実演、ドローンの操縦体験の出前授業を行った。仕事の一端に触れてもらうことで、建設コンサルタントの社会インフラを支える技術者集団としての役割や魅力を広く知ってもらうと共に、子供たちの働くことへの関心や意欲を刺激することを目的に開催した。

開催日時；2022.10.24、参加者；小学5年生 27名



写真 5-4-11 出前授業状況の様子

2) 学生向け業界説明会

四国地方の大学生、高等専門学校生、高校生等を対象として、建設コンサルタントの概要説明、若手技術者を交えた座談会、質疑応答、リクルートに関するアンケート調査等を実施している。

2022年度は、徳島大学、阿南工業高等専門学校、愛媛大学において、対面形式で実施した。

2022年12月13日

阿南工業高等専門学校

参加者：3年生（26名）

1. リクルート動画（業界説明）
2. 若手技術者を交えた座談会
3. 質疑応答
4. アンケート調査



写真 5-4-12 学生向け業界説明会の様子

(9) 九州支部：地域路線バスへの広告

今後の少子化を鑑みると、建設コンサルタントで働く次世代の担い手確保は若手としても取り組むべき重要な課題である。そこで、九州支部若手委員会でも、新たな取組みの一つとして、建設コンサルタントを知らない一般の人々（特に学生）に対する周知・広報活動を積極的に展開している。

広報活動としては、これまでも他支部でCMやYouTube作成等、種々の取組みが試行されてきたが、九州支部では低予算かつより身近な周知方法として、地域路線バスに広告を掲載することを試みた。高校生や大学生が頻繁に利用するバス路線を抽出し、協会広告を一定期間掲示した。広告は若手委員会内で自作し、バス待ちの乗客や一般歩行者などをターゲットとした車外側面への掲載と、乗車中の乗客をターゲットとした社内掲載（バスジャック）の2手法を実施した。

掲載効果は今後要検討と考えているが、『まずは挑戦』という、若手ならではの思想のもと積極的な活動を実施・継続している。



写真 5-4-13 作成広告(一例)



写真 5-4-14 バス車外広告(約3ヵ月間)



写真 5-4-15 バス車内広告：バスジャック(約1ヵ月間)